

小助川貞次教授

最終講義

自言語による古典語文献の読解についての研究(展開と回帰)



ベトナム・バクニンにて

2月20日(日)

17:00~19:00

ZOOMによるリモート開催

【略歴】

秋田県由利本荘市に生まれる。北海道大学大学院文学研究科修士課程修了(石塚晴通教授に師事)。文学修士。北海道大学文学部国語学講座助手、富山大学人文学部助教授を経て、2001年より同教授。訓点語学会運営委員(2009年~)。

【論文(単著)】「尚書正義との関係から見た古文尚書平安中期点の問題」『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』(汲古書院、2005)、「東アジア漢文訓読資料としての敦煌加点本の意義」『国語国文研究』131(2007)、「東アジア学術交流史としての漢文訓読」『富山大学人文学部紀要』51(2009)、「句読点の機能から見た東アジア漢文訓読史」『訓点語と訓点資料』127(2011)、「敦煌漢文文献(漢籍)の性格とその漢字字体」『漢字字体史研究』(勉誠出版、2012)、「ベトナムの加点資料について」『訓点語と訓点資料』133(2014)、「關於越南國立圖書館所藏書經大全與五經節要的加點」『東亞漢籍與越南漢喃古辭書研究』(中國社會科學出版社、2017)、「階層構造から見た唐鈔本漢書楊雄伝の研究課題」『訓点語と訓点資料』141(2018)、「敦煌本漢籍における加点の問題について」『訓点語と訓点資料』143(2019)、「訓点研究「超」入門」『日本語文字論の挑戦』(勉誠出版、2021)、「唐鈔本古文尚書の本文と訓点の問題」『富山大学人文学部紀要』76(2022)

【解題(共著)】『東洋文庫善本叢書』(勉誠出版、1:2014、6:2014、5:2015、7:2015、9:2015、11:2015、12:2015)、『古典研究会叢書漢籍之部』(汲古書院、5:2015、4:2017)、『国宝漢書楊雄伝第五十七』(汲古書院、2019)

参加申し込み:2月13日締切り

最終講義は、Googleフォームにて参加手続きください。参加手続きをされた方に接続方法等をお知らせいたします。
https://docs.google.com/forms/d/1KTM8ds0S4EsyR1TlhKXedMvhDM_XqoNrL9CQBJ9CNmU/edit



お問い合わせ:富山大学人文学部 森賀一恵:moriga@hmt.u-foyama.ac.jp
川島拓馬:kwsmtkm@hmt.u-foyama.ac.jp
同志社女子大学 中井精一:nakai620703@gmail.com